令和７年度　やまがた社会貢献基金助成事業　活動報告書

団体名	よりみち文庫		
事業名	学校に行かない／行けないことを「生きづらさ」に直結させない地域社会の情報環境整備事業		
助成事業区分	協働助成事業（テーマ型） 【テーマ：イオン・さくらんぼ WAON　子どもの健全育成支援事業】		
団体の所在市町村	山形市	事業費	321,330 円
		うち助成金額	320,000 円
事業実施期間	令和７年７月１日～令和８年２月末日まで		

事業目的・実施内容

（事業目的）

「不登校」の年間児童生徒数が415,252人（2024年文科省調査）、本県でも「不登校」児童生徒数は2,339人（2023年）と過去最多を記録している。背景にはさまざまな事情があろうが、学校に行かないこと／行けないことがさまざまな圧力や差別を当人たちに追加的にもたらし「生きづらさ」を抱える者も多い。こどもの年間自殺者数が過去最多の527人（2024年厚労省調査）、本県の10代の自殺が8人（2023年）といった数値はその端的な現われとも考えられる。問題は、学校に行かない／行けないとなったときに「学校復帰」に代わる学びや育ちの選択肢が存在していることが当事者やその家族に十分には知られていないこと、さらにはそうした選択肢の量や質が地域によってはニーズに対しまだまだ不十分であることにある。学校に行かない／行けないということが「生きづらさ」につながらないような社会にしていかなくてはならない。本事業のねらいは、「不登校」という「生きづらさ」を構成する地域社会の側の課題――社会教育としての課題――にアプローチし、それらを解消することである。

（実施内容）

１）学校に行かない／行けない子どもたちとその家族の声（ニーズ）を可視化する
２）子どもの学び育つ権利を保障するべく活動しているさまざまな地域社会教育資源の存在を可視化する
３）上記の両者をつなぐ場＝メディアをつくる

県内４地域において、「「不登校」を考える対話キャラバンinやまがた」と称し、それぞれの地域で活動する親の会、支援団体、もと当事者などによるトークイベント＆ワークショップを、当事者とその家族、関係者を主たる対象に対面で開催した。

①庄内集会（9月13日、古今［鶴岡市］、トークゲスト：佐藤恵氏［明日のとびら］・渡邉敦氏［KIDS DOME SORAI］、参加者21名）
②最上集会（10月4日、une［最上町］、トークゲスト：Fred Lauer氏［Kamui Kids］・高橋扶紀氏［セラピーファームめごたま］、参加者21名）
③置賜集会（11月29日、旧長井小学校第一校舎［長井市］、トークゲスト：白石祥和氏［With優］・横地萌園氏［みちくさクラブ］、参加者40名）
④村山集会（1月31日、さくらんぼタントクルセンター［東根市］、トークゲスト：樋口愛子氏［クローバーの会@やまがた］・村山恵子氏［クリエイトひがしね］、参加者38名）

	※今後、イベント等で可視化された声を集約し、フリーペーパー等を制作する。「今後の展望」参照。



置賜集会（2025年11月29日、旧長井小第一校舎@長井市）のようす



村山集会（2026年1月31日、さくらんぼタントクルセンター@東根市）のようす

事業の成果	本事業を通じて、「不登校」問題にとりくむ各地の支援資源の存在に光が当たった。それによって、これまで孤立し孤独に苦しんでいた各地の当事者とその家族にケアやサポートを届けることができた。また、本事業を通じて、県内４地域のそれぞれにおいて、地域ごとの「不登校」関係者どうしの立場を超えた横のつながりが新たに生まれたとともに、地域をこえたネットワークが構築されることとなった。
今後の展望	今後、現在学校に行っていない子どもたちだけで集まり、その思いを語れるオンラインの場を設け、彼（女）らのニーズを拾う。イベントやワークショップで可視化された声を集約し、当事者自身による活動やそれを支えてくれる地域資源、県の相談窓口の情報、子どもの権利や教育機会確保法の考えかたなどを一覧できるフリーペーパー「〈不登校〉の歩きかた（仮）」（A2判、5,000部）ならびに特設のウェブページを制作、各地の活動現場に今後の支援のツールとして供給する。 本事業を通じて生成した「不登校」当事者とその家族、支援者、関係者のネットワークとその力を活用し、ますます増えていく「不登校」の子と親を支える社会環境の整備にとりくんでいく。具体的には、個々の活動や運動が孤立したり頓挫したりしないよう手助けする中間支援や、学校に行かない／行けない子どもたちの学びや育ちを支える新たな支援資源を地域社会に生み出す人材育成にとりくんでいく。



一箱古本市への出店のようす



読書会のようす



実践交流会のようす

団体概要

よりみち文庫
共同代表　滝口克典　小笠原千秋
URL
https://yorimichibunko.myportfolio.com/
よりみち文庫は、学びの場づくりとその中間支援にとりくんでいます。

令和７年度山形県ＮＰＯ活動促進補助事業

収支精算書

事業の名称	学校に行かない／行けないことを「生きづらさ」に直結させない地域社会の情報環境整備事業
団体名	よりみち文庫

１　収入の部

（単位：円）

区分	精算額	内容
県補助金	320,000	令和７年度山形県NPO活動促進補助金
当該事業による収入		
その他収入	48	ポイント付与分
自己資金	1,282	
合計	**321,330**	

２　支出の部

（単位:円）

区分	精算額	内容
謝金	120,000	トークイベント謝金＠15,000×8名（受取者：渡邊敦、佐藤恵、ラーワーフレデリックアイザック、髙橋扶紀、白石祥和、横地萌圓、樋口愛子、村山恵子）
旅費		
印刷製本費	60,000	イベントチラシ制作（A3判3,000枚）＠20,000 デザイン料 40,000円
消耗品･材料購入費	24,640	図書購入費＠24,640
通信運搬費	3,440	郵送費＠3,440
保険料		
使用料	17,250	会場費＠17,250
人件費	96,000	事務局人件費＠1,500×64時間
（委託費）		
（備品購入費）		
（修繕費）		
合計	321,330	

令和７年度　やまがた社会貢献基金助成事業　活動報告書

団体名	出羽庄内市民ミュージカル若手塾		
事業名	若者世代に伝える市民ミュージカル公演「世界一の水族館～加茂水族館物語」		
助成事業区分	（協働助成事業・テーマ希望型） （イオン・さくらんぼ WAON 子どもの健全育成支援事業）		
団体の所在市町村	鶴岡市	事業費	2,541,285 円
		うち助成金額	1,000,000 円
事業実施期間	令和７年６月 11 日～令和８年１月 31 日まで		

事業目的・実施内容

（事業目的）

コロナ前には、学校を中心に盛んだった演劇表現活動は、コロナが収まってからは、完全復活とはいえない状況である。一方で、若い世代を取り巻く環境は、異なる文化の中で他者の気持ちを推し量り自分を表現する力が、より必要とされるようになっている。市民参加型ミュージカルで、「表現、想像、生きる力」を養うことを目的に活動している。

人口減少が進み少子化がすすむ地域で、一時は閉館寸前になったにもかかわらず、世界一の水族館となった「加茂水族館」（現・「東北エプソンアクアリウムかもすい」）の復活劇で、年代に関わらず元気をもたらす話になると考え、ミュージカル創作をして公演した。

（実施内容）

これまでもご縁があるプロに台本作成と作曲を依頼、令和７年３月、名誉館長・現館長に制作伊藤と台本作家坂口氏が取材・館内見学をして、構想を練る。台本完成は５月末、作曲家に作曲依頼。曲は、月二曲ずつ出来、歌・ダンスの稽古も一曲ずつ、全10曲が、10月初めに揃った。土・日・休日・長期休みなどを通して、ジュニアと社会人・遠方の客演者・地元の客演団体などと連携しながら稽古を重ねた。平行して、スタッフ業者と打ち合わせ。公演は、11月23日（日）鶴岡市中央公民館大ホールで、観客400名（内、ジュニア世代小中高生20名、招待客54名）。ジュニア世代の観客が少なかったのは、私達の準備不足だった。観劇したジュニア1名が、新たにメンバーとなった。ほとんどのお客様が、感動した、涙涙だったなど喜んでくれたが、助言もあった。

観客からのアンケートは、66枚回収。

評価（①すごく良かった。52 名　②まあ、よかった。6名　⑥無記入6名）







事業の成果	※公演終了後、「鶴岡市芸術祭」の最高賞「大賞」を受賞できた。イオンさんはじめ多くの方々のおかげと感謝したい。 「日本一小さな加茂水族館の辿った波乱の歴史。そのストーリー性が素晴らしく感動的であった。社会問題、環境問題などを訴える児童に強い発信力があり、鶴岡人、村上龍雄氏の人間描写に心揺さぶられる。美しく心温まるストーリーと舞台。「生きる」メッセージも織り込まれキャスト・スタッフ一丸となって創り上げたこの作品は、郷土を見つめ愛するきっかけともなるだろう。感動と大きなエネルギーが満席の会場を満たしていた。」 **10代観客のアンケート回答**の好評価は、出演若手のモチベーションアップにつながった！ ①話がおもしろかったから少しやってみたくなった。（10代女性） ②ダンスがすごい。せりふをおぼえるのがたいへんだと思った。（10代女性） ③キャスト一人ひとりの演技・声・歌に心をうたれました！表情豊かで、観客も一緒になって楽しめる舞台でした。とても楽しい舞台でした。（10代男性）
今後の展望	① 10代までのジュニア世代の来場人数を増やしたい。若者世代に、「加茂水族館復興をＰＲする」という目的があるが、ジュニア世代の来場者は、令7年度は、全体の約10%だった。人数的には不足だった。次回は、ＰＲ時期を早め、ポスター・チラシの制作・配布も早めに、少子化の中でも、増やせるように努力する。 ② 令7年度は、予算の関係で、ポスターを制作しなかった。今年度公演は、7月中にポスター制作をして、広く情報がいきわたるように計画した。（チラシ予算を縮小） ③ チケットも7月中に印刷、販売開始する。 ④ 小中学生の観劇参加数100人を目標にして、学校関係にも相談し、手を尽くしたい。 ⑤ リニューアルされたかもすいで、観光客・他地域の客にPRしたいので、ダンスをお客様に披露する提案をしたが、混雑することが予想される休日は難しい。港に着岸するクルーズ船客「かもすい」のPRを兼ねて、ソング＆ダンス「加茂水族館ナンバーワン」と海ごみ回収の「決意」などを船客に披露したいと、県の担当課（国際観光・高付加価値創出課）に要請している。 リニューアルオープンした「東北エプソンアクアリウムかもすい」は、今の所お客様は多い。名誉館長村上さんが、「リニューアルして、一年くらいは、お客さんが入るが、そのあとは、しばらく低迷する。その期間をどう乗り切るかが、経営の手腕だ。」とおっしゃっていた。これは、どんな企業にもあてはまるテーマである。そういう経営者としてのご苦労と努力が有ってこそ今の水族館の隆盛があるということを若い世代に伝えたい。そのために、台本作家と話し合い、改訂を了解いただいき新しい場面をつけて発表する。





団体概要

団体名　出羽庄内市民ミュージカル若手塾
代表者　大井　卓磨

私達は、１０代から７０代までのメンバーが、山形庄内の若者世代が元気になるミュージカルを創って、発表しています。

令和７年度山形県ＮＰＯ活動促進補助事業

収支精算書

事業の名称	若者世代に伝える市民ミュージカル公演「世界一の水族館～加茂水族館物語」
団体名	出羽庄内市民ミュージカル若手塾

１　収入の部

（単位：円）

区分	精算額	内容
県補助金	1,000,000	令和７年度山形県NPO活動促進補助金
当該事業による収入	472,500	チケット販売
その他収入	932,000	協賛
自己資金	136,785	
合計	2,541,285	

２　支出の部

（単位:円）

区分	精算額	内容
謝金	1,624,000	作曲謝金・総合演出謝金・舞台監督謝金等
旅費	324,217	舞台監督他旅費・宿泊費
印刷製本費	81,423	プログラム・チケット製版印刷代
消耗品･材料購入費	61,123	大道具用壁紙等
通信運搬費	4,270	資料送料
使用料	291,782	体育館・照明・音響機使用料
(委託費)	140,900	照明オペレータ・録音
その他(振込料金)	1,760	振込手数料
スタッフ食事購入費	11,810	スタッフ食事代
合計	2,541,285	

令和７年度　やまがた社会貢献基金助成事業　活動報告書

団体名	地域食堂　南山形みんなの広場（コドモのミカタ）		
事業名	居場所と繋がり 地域・医療福祉・学校・行政を繋ぐ地域食堂		
助成事業区分	協働助成事業（テーマ希望型） 【イオン・さくらんぼWAON　子どもの健全育成支援事業】		
団体の所在市町村	山形市	事業費	1,008,023 円
		うち助成金額	978,241 円
事業実施期間	令和 7年 6 月 11 日 から 令和 8年 2 月 28 日まで		

事業目的・実施内容

（事業目的）

家庭環境や経済状況に左右されることなく、すべての子どもたちが等しく多様な体験をし、学び、成長できる「居場所」を提供することを目的とする。共食を通じて温かい食事と会話の場を設け、基本的な生活習慣や礼儀作法を身につける機会を提供するとともに、地域住民や大学生との交流を通じて多様な価値観を学び、社会性を育むことを目指す。地域の文化や伝統行事を体験でき、子どもたちが地域の温かさを感じられる子どもから高齢者まで安心して集い、つながることができる場の創出にも取り組む。さらに、山形県立保健医療大学や東北文教大学の学生と連携し、医療・福祉の専門知識を活かし問題を抱える子どもへの配慮を行うほか、学生が、大学の医療実習だけでは体験できない学びの場を設定し、地域食堂等を通じて多様なニーズに応えることで、地域福祉の充実に貢献する。子どもたちの成長を支援し、地域社会のつながりを強化し、大学生の社会参画を促進することで、より豊かで持続可能な社会の実現を目指す。

（実施内容）

① 地域食堂　場所：南山形コミュニティーセンター
実績：令和７年６月１５日（日）、７月１３日（日）、８月１７日（日）、９月２１日（日）、１０月１２日（日）、１１月１６日（日）、１２月２１日（日）、令和８年１月１８日（日）、２月１５日（日）
令和７年８月１１日（月）　山形県立保健医療大学とのインクルーシブ合同夏企画
延べ人数：1300名　学生ボランティアを含めると１５００名
② 学生教育の実践・地域医療の発展　研修会、セミナー等の実施
実績：令和７年８月５日に、令和７年８月１１日（月）　山形県立保健医療大学とのインクルーシブ合同夏企画に向けた事前研修会を山形県立保健医療大学にて学生に対して実施。内容は熱中症対策・対象者理解について。
令和７年７月３０日（水）山形県立保健医療大学　看護学科学生　卒業研究の承諾
令和７年１０月２９日（水）山形市立南山形小学校　４年生の総合学習の講師として福祉・ボランティアについて講義を実施
令和７年１１月２９日（土）成長期のジュニアアスリート向け・怪我予防とパフォーマンス向上のための身体ケアの研修会実施。井上智晴先生
③ 長期休暇における学習支援
実績：令和７年７月３０日、３１日、１２月２４日（水）（作谷沢にて実施）
④ 不登校、中途退学したお子さん、発達障害等の配慮が必要な方々への支援
実績：令和８年２月２３日（月）（ミニ地域食堂）
高校入試の合理的配慮確立に向けた、県教育委員会との話し合い。公立高校合格。





事業の成果	本事業の実施により、地域食堂は毎回約80～130名、年間延べ約1,300名が参加する多世代交流の場として定着した。食事提供に加え、うどん作りや餅つき、工作、伝統文化体験など多様な活動を通して、子どもたちに家庭や学校以外の学びの機会を提供した。山形県立保健医療大学や山辺高校の学生ボランティアも多数参加し、地域福祉やインクルーシブ社会を学ぶ実践の場となり、大学の卒業論文の題材にもなった。南山形小学校との連携も進み、地域教育にも寄与した。さらに障害のある子どもや不登校傾向の子どもにも配慮し、少人数制のミニ地域食堂も実施することで、誰もが安心して参加できる地域の居場所づくりにつながった。今後も地域・学校・大学が連携し、持続可能な地域の居場所づくりを推進していく。
今後の展望	本事業を通じ、地域食堂が子どもから高齢者まで多世代が交流できる地域の居場所として定着していることを実感した。今後も継続的に活動を発展させ、地域の子どもや家庭が安心して集える環境づくりを進めていきたい。また、大学生や高校生のボランティア参加は地域福祉を学ぶ機会にもなっている。今後は学校や行政との連携をさらに深め、学習支援や体験活動も含めた「誰一人取り残さない」地域の居場所づくりを推進していく。







団体概要

団体名　南山形みんなの広場(コドモのミカタ)
代表者　難波　　知晶
URL
HP:https://kokomo-no-mikata.my.canva.site/kodomo
Instagram：
https://www.instagram.com/kodomono_no_mikata?igsh=ZTgwdGxzd3dsb3F2&utm_source=qr

令和７年度山形県ＮＰＯ活動促進補助事業

収支精算書

事業の名称	居場所と繋がり 地域・医療福祉・学校・行政を繋ぐ地域食堂
団体名	地域食堂　南山形みんなの広場(コドモのミカタ)

１　収入の部

（単位：円）

区分	精算額	内容
県補助金	978,241	令和７年度山形県NPO活動促進補助金
当該事業による収入		
その他収入	894	ポイント
自己資金	28,888	
合計	1,008,023	

２　支出の部

（単位:円）

区分	精算額	内容
謝金	80,000	ジュニアアスリート研修会講師(70,000円)他謝金
旅費		
印刷製本費	460	チラシ印刷
消耗品・材料購入費	557,327	食材費、体験・企画で使用する機械、材料等
通信運搬費	640	手紙郵送
保険料		
使用料		
人件費	286,250	学生教育・学習支援企画や研修会・ワークショップ人件費
(委託費)		
(備品購入費)	55,000	オーブンレンジ
(修繕費)		
会議費	28,346	
合計	1,008,023	

令和７年度　やまがた社会貢献基金助成事業　活動報告書

団体名	特定非営利活動法人やまごや		
事業名	障害の社会モデルに基づくインクルーシブな学びの場推進事業		
助成事業区分	協働助成事業（テーマ希望型）【テーマ：子どもの健全育成支援事業】		
団体の所在市町村	鶴岡市	**事業費**	1,012,341 円
		うち助成金額	1,000,000 円
事業実施期間	令和７年６月 11 日～令和８年２月 28 日まで		

事業目的・実施内容

（事業目的）

本事業は、障害の社会モデルに基づき、障害児を含むすべての子どもが安心して学べる環境を整備し、インクルーシブ教育を地域に広げることを目的とした。具体的には、①障害を個人ではなく環境や制度の問題として捉える「社会モデル」の視点を参加者全員で共有し（共通認識の構築）、②教育現場における合理的配慮の具体的な提供方法を学んで実践力を高め（実践力の向上）、③教育関係者・専門家・保護者等の連携を強化して継続的な支援体制の基盤を整備する（支援ネットワークの構築）ことを目指した。フリースクール「SORAI SCHOOL」への作業療法士（ＯＴ）による伴走型支援を軸に、地域全体のインクルーシブ教育の推進に取り組んだ。

（実施内容）

◯ＯＴＤワークショップ「ゲームを通して考えるインクルージョン」（8/24・庄内産業振興センター・教職員／保育士／放課後等デイ職員等）

多様性による組織変革（ＯＴＤ）プログラムを用い、ゲーム体験を通じてマジョリティの無意識の前提に気づき、「障害の社会モデル」を直感的に理解した。参加者の 85.7%が「大変満足」、100%が「身近な人に勧めたい」と回答。

◯第１回活動報告会（10/17・庄内産業振興センター第２研修室）

ソライスクールでのＩＣＴ活用「デジタルシーカーコース」を報告。手書き中心の慣習を「表現のバリア」と捉え、iPad 導入により読み書きに困難のある児童の主体的な表現を実現した。参加者全員がＩＣＴ活用を「極めて有効」と評価。

◯第２回活動報告会（11/21・鶴岡市中央公民館）

ＮＨＫ for School 教材「クイズ！一番悪いのだ～れだ？」を用いた授業を報告。「心の電話」で登場人物の見えない背景を知り、ステレオタイプを問い直す対話のプロセスを共有した。参加者全員が「有効」と回答。

◯成果報告会（1/24・庄内産業振興センター第２会議室・オンライン併用）

地域の居場所活動紹介・事業成果報告に加え、東京大学の飯野由里子氏・平林ルミ氏による特別講演「『社会モデル』から始めるインクルーシブな学校づくり～明日からできる第一歩～」を実施した。

◯成果報告書の作成・配布：実践事例・専門家コメント・アンケート結果をまとめた冊子を作成し、関係機関・教育委員会へ配布した。



▲成果報告書「すべての子どもが安心して学べる地域へ」表紙



①ＯＴＤワークショップ（8/24）

事業の成果	各回のワークショップ・報告会には教員・保育士・専門職・保護者など多職種が参加し、いずれも高い評価を得た。ＯＴＤワークショップでは 85.7%が「大変満足」、参加者全員が推奨意向を示した。ＩＣＴ活用や多様性理解の報告会でも参加者全員が「有効」と回答し、「読み書きが苦手なことを障害と捉えるのではなく、環境がそれを障害にしている」といった社会モデルの視点が浸透した。フリースクールでの伴走型支援では、書字負担の軽減や空間の構造化などの環境調整により、児童が自己効力感を高め主体的に学ぶ姿へと変化した。作業療法士の専門的視点と東京大学の研究知見を現場に還元することで、社会モデルを基盤とした地域内ネットワークの基盤を構築できた。
今後の展望	本事業で得られた実践知を基に、東京大学大学院バリアフリー教育開発研究センターが主催する「インクルーシブな学校づくり研究会」（月１回開催）への参加を軸に、社会モデルを基盤としたネットワーク構築を進める。伴走型支援については、①視点の転換、②専門的知見の定着、③組織力の強化という３つの可能性が示されたことから、作業療法士等の専門人材を交えた自治体単位での展開を目指す。リソース不足・「特別扱い」への懸念・継続性の欠如といった課題に対し、日常的に学び相談できる仕組みづくりと成果報告書の活用を通じて、社会モデルに基づく教育実践が「特別な支援」ではなく「当たり前の環境」として庄内地域、そして山形県全体に根付くよう活動を継続していく。



②第１回活動報告会（ＩＣＴ活用）



③第２回活動報告会（多様性理解）



④成果報告会（オンライン併用）

団体概要

団体名：特定非営利活動法人やまごや

代表者：代表理事　平向　正包

URL：https://npo-yamagoya.org

ＮＰＯ法人やまごやは、障害の社会モデルに基づくインクルーシブな地域づくりを推進しています。

▶ 報告書全文（PDF）はこちら

報告書全文

令和７年度山形県ＮＰＯ活動促進補助事業

収支精算書

事業の名称	障害の社会モデルに基づくインクルーシブな学びの場推進事業
団体名	特定非営利活動法人やまごや

１　収入の部

（単位：円）

区分	精算額	内容
県補助金	1,000,000	令和７年度山形県NPO活動促進補助金
当該事業による収入		
その他収入		ポイント付与分
自己資金	12,341	
合計	1,012,341	

２　支出の部

（単位:円）

区分	精算額	内容
謝金	140,000	講師謝礼金
旅費	1,350	ガソリン代（チラシ配布）
印刷製本費	425,270	チラシ、報告書作成等
消耗品･材料購入費	17,262	コピー用紙、インク代
通信運搬費		
保険料		
使用料	50,084	会場使用料、Zoom使用料
人件費	281,375	事務局・コーディネーター人件費
(委託費)	97,000	写真撮影、Zoomサポート
(備品購入費)		
(修繕費)		
合計	1,012,341	

令和７年度　やまがた社会貢献基金助成事業　活動報告書

団体名	認定特定非営利活動法人発達支援研究センター		
事業名	もうひとつの進路合同説明会事業		
助成事業区分	協働助成事業（テーマ希望型） イオン・さくらんぼ WAON　子どもの健全育成支援事業		
団体の所在市町村	山形市	事業費	748,337 円
		うち助成金額	678,241 円
事業実施期間	令和　7 年　6 月　11 日　から　令和　8 年　2 月　28 日　まで		

事業目的・実施内容

（事業目的）

義務教育以後の進路は様々あるのに対して、中３の子どもとその親がそれを知っていることはあまりありません。また、義務教育段階において不登校傾向だと、進路未定のまま中学を卒業する子どもや、全日制高校に進学してもうまく適応できずに中退する子どももいます。中３の進路決定の時点でもっと情報を得ていたら、その子に合う進路が選べたかもしれないという思いを抱いてきました。すべての子どもに所属のある義務教育最終年度に、必要な情報を必要な子どもとその親に届けたい、また社会に出るまでの伴走支援をしたいと考え、計画するものです。

（実施内容）

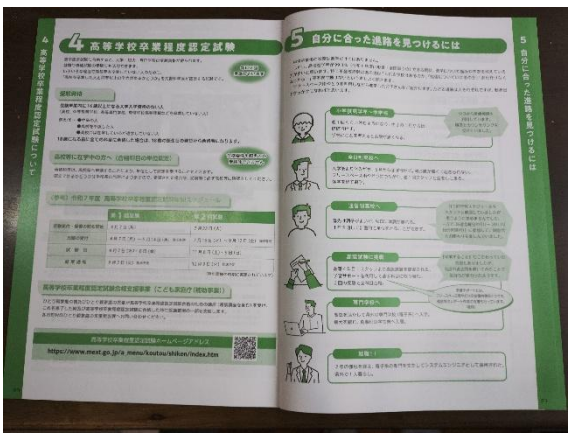
①「もうひとつの進路合同説明会」の開催
令和7年9月23日、山形ビッグウイングにて開催。
参加者数：来場者61組104名。通信制高校7校。支援機関2機関。
②小冊子の発行
『やまがた進路選択ナビブック』を600部発行。イベント時に配布するほか中学校26校高等学校23校適応指導教室12箇所に郵送。その後も問い合わせに応じて追加で郵送している。
③自学自習の時間「スタディータイム」の開室
開室日数：９４日
利用者数：のべ２８名





事業の成果	多様な進路の情報提供を行うことによって、ひとりひとりその子に合った進路を選ぶことができ、子どもの健全育成に寄与した。また、困難を抱える子どもとその親が様々な情報を得ることによって支援機関等につながり、ひきこもり等の社会的孤立を防ぐことにつながった。自習の居場所を開くことによって、例えば通信制高校という所属感が比較的薄く、親子ともに孤独孤立を感じやすい環境の中でもゆるやかに、しかし切れ目なくつながることができた。 ・スタディータイムを利用して通信制高校の単位を取得した人数：2名、うち1名は卒業することができた。
今後の展望	進路合同説明会は令和４年度から継続しており、回を重ねるごとに参加者が増えニーズの高さを感じている。義務教育終了後の進路の多様性が社会に認められていくとともに、誰もが地域の中で自分らしく暮らせるようなあたたかい社会へと変化することに貢献できる事業と考えており、今後も各種助成金等を活用して継続していきたいと考えている。 本事業の周知とともに、法人全体の活動もアピールして支援者の獲得につなげていく。







団体概要

団体名　認定特定非営利活動法人
発達支援研究センター

代表者　細谷　暁子

URL　https://cdss.jp

HP　Instagram

令和７年度山形県ＮＰＯ活動促進補助事業

収支精算書

事業の名称	もうひとつの進路合同説明会事業
団体名	認定特定非営利活動法人　発達支援研究センター

１　収入の部

（単位：円）

区分	精算額	内容
県補助金	678,241	令和７年度山形県NPO活動促進補助金
当該事業による収入		
その他収入		
自己資金	70,096	
合計	748,337	

２　支出の部

（単位:円）

区分	精算額	内容
謝金		
旅費	41,896	スタッフ交通費
印刷製本費	365,320	進路選択ナビブック作成費
消耗品･材料購入費	65,887	学習の居場所用WiFi・コピー用紙等購入費
通信運搬費	28,560	案内チラシ・ナビブック郵送料
保険料		
使用料	42,160	会場費
人件費	186,028	スタッフ賃金
(委託費)		
(備品購入費)		
(修繕費)		
その他	18,486	銀行振込手数料・参加校お礼（菓子折り）
合計	748,337	

令和７年度　やまがた社会貢献基金助成事業　活動報告書

団体名	里山ネットワークやまがた		
事業名	加茂水産高校×山辺高校との低未利用魚加工品の開発 Part2		
助成事業区分	協働助成事業（テーマ希望型） 【山形から発信！未来へ繋ぐ循環型社会づくり支援事業】		
団体の所在市町村	山形市	事業費	989,479 円
		うち助成金額	900,000 円
事業実施期間	令和７年６月 11 日～令和８年２月 28 日まで		

事業目的・実施内容

（事業目的）

庄内浜の海水温の上昇と磯焼けなどによる漁獲量の減少に対応し、市場価値の低い魚が有効利用されることを目的に以下の取り組みを行う。

○破棄されがちな低未利用魚種を循環資源として新たな価値を創出。
○地域の高校生が開発に関わった水産物を用いた加工品を通じて庄内浜の水産資源の魅力をPRし、知名度アップを図る。
○漁師の高齢化、担い手不足、子供たちの魚離れ、といった地域の課題に対処し、地域の活性化を促す。

（実施内容）

〈実施概要〉：山辺高と加茂水産高が共同して庄内浜で獲れる市場価値の低い魚種を活用した加工品開発プロジェクトを実施。水産資源の有効活用を行い、資源循環型の取り組みを推進する。エソ、げんげ、小サイズ鯖、イクラ採取後の鮭、黒バイ貝などを主として開発された商品は、道の駅やまがた蔵王で調理販売され、庄内浜発の加工商品として広くPRされた。試作品完成まで両校による交流が7回程度行われた。
〈試作販売会〉：2026年1月10日（土）
〈参加者〉：加茂水産高教諭・生徒19名、山辺高教諭・生徒31名、スタッフ6名
〈場所〉　：道の駅やまがた蔵王
〈講師〉　：両校教諭、庄内浜文化伝道師
〈開発商品〉：つみれ入りスープ、つくね棒、フィッシュバーガー、黒バイガイ焼売







事業の成果	○全国的にも規格外や漁獲量が少ない・市場価値の低さなどで未利用として扱われる魚が全漁獲量の約3割になると言われている。山形県庄内沖でもこれらの魚を活用することは水産資源の持続的利用・食品ロスの削減・地域経済の活性化などが期待される。 ○内陸と庄内の実業高で、水産や船舶関連を目指す加茂水産高と調理や食品管理関連を目指す山辺高校が共同してこれらの課題に取り組んだこと、そのために2回の試作試食を通しての意見交換、庄内浜の見学、メディアへの共同出演、数回の協議などで互いの学校への理解が進んだ。 ○結果、庄内沖で扱われている様々な未低利用魚をミンチして混ぜ合わせ、「スープ」・「焼物」・「揚物」を開発。これまでの交流では深まったコミュニケーションが出来たためか「販売会」でもスムーズに協力しながら実施。全商品「完売」することが出来た。 ○アンケートも行い、「魚のうまみが詰まっていて美味しかった」「もっとメニュー品数を増やして欲しい」といただいた一方、「スープが少し冷たかった」などの指摘も。また実業高校同士のコラボ企画を評価して下さる意見もあった。
今後の展望	○漁獲高の減少に直面している庄内浜で、獲れる魚「未低利用魚」を最大限活用し「魚類加工品」の開発に注力し、更に従来開発した加工品であっても改良を重ね、その商品価値を高めたい。 ○メニュー・調理・ネーミング・売価・接客など生徒が主体的に関わってくれました。味だけでなく加工品すべてにおいて「加茂水産高×山辺高」のブランドが評価され「より美味しく、より支持され、より売れる」ようになりたい。 ○両校に相談しながら自走式企画となれるように目指したい。











団体概要

団体名　里山ネットワークやまがた
代表者　佐藤五郎

令和７年度山形県ＮＰＯ活動促進補助事業

収支精算書

事業の名称	加茂水産高校×山辺高との低未利用魚加工品の開発Part2
団体名	里山ネットワークやまがた

１　収入の部

（単位：円）

区分	精算額	内容
県補助金	900,000	令和７年度山形県NPO活動促進補助金
当該事業による収入	86,000	加工品実証販売会売上金
その他収入		
自己資金	3,479	
合計	989,479	

２　支出の部

（単位:円）

区分	精算額	内容
謝金	30,000	フーディライト¥30,000
旅費	35,728	教諭4名（12/23. 1/10）@8,932
印刷製本費	230,725	会場内ポスター・POPデザイン＆出力 広報チラシデータ作成＆出力
消耗品･材料購入費	162,584	手塚商店¥11,016　　山辺高¥118,568 加茂水産高¥33,000
通信運搬費		
保険料	2,000	傷害保険
使用料	236,832	道の駅やまがた蔵王¥78,332 バス貸切　　¥103,400　カモンマーレ　¥38,500
人件費	110,000	3名
（委託費）	174,900	1/10イベント運営補助　　¥103,400 計画準備・企画活動・渉外費　¥71,500
（備品購入費）		
（修繕費）		
その他	6,710	振込手数料
合計	989,479	

令和７年度　やまがた社会貢献基金助成事業　活動報告書

団体名	ヤマガタ防災・減災 Action！		
事業名	災害を生き抜き、暮らしを守る”ゲンサイライフサポーター”育成		
助成事業区分	協働助成事業（テーマ希望型） 【山形日産　子どもから大人まで防災・減災を学び、安心して暮らせる社会づくり支援事業】		
団体の所在市町村	山形市	事業費	1,004,022 円
		うち助成金額	1,000,000 円
事業実施期間	令和７年６月１１日～令和８年２月２８日まで		

事業目的・実施内容

（事業目的）

Ｒ６.7月の大雨災害において、避難所開設・運営が公助任せとなった現状があり、被災した公助においては避難所の環境整備にまで手が回らず全国的に求められる避難所運営の質を満たすことが難しい現状があった。避難所の運営や設置については、市民の参画が求められる部分である。その為には自助の推進や共助へ理解が必要となる。「避難生活」を視点として、最新の災害被害の体験やシュミレーションを踏まえ、男女共同参画の視点や要配慮者に対する視点、被災者の置かれる状況などを学び、避難生活に対し、自ら改善していく力を持つ、防災と暮らし両方の視点をもった支援者（サポーター）を増やすことを目的とした。

（実施内容）

地域防災計画で想定している地震災害発生時に想定される避難行動、そして避難生活に視点を置き、具体的な対策を学び、それを自助として自分の生活に活かし、地域の共助への参画の第一歩となる人材の育成を目的に訓練・研修を実施する。

①災害発生へのイメージづくり（地震災害の想定、命と暮らしを守る方法）YURETAでの地震疑似体験
②災害時の避難所の様子を知る（避難所備品等の体験）
③避難所の設営・運営のポイント（地震時の避難所の課題を学ぶ、被災地の実例から男女共同参画・要配慮者・ペット等の視点、改善点を洗い出す）
④避難所で役立つ掲示物等の制作（どの避難所でも使えるコミュニケーションシートの制作）※声を上げにくい人、言いにくいことを表現することにフォーカスし、シートを制作した。

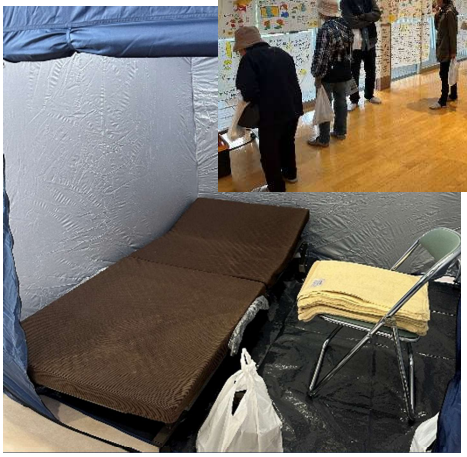
①・②を実施するため、地震体験マットYURETAを実施できる「山形ゆらし隊（実施する人材をゲンサイライフサポーターとする）」の結成に向け、認定団体となるための研修に参加。認定後、YURETAを使用し①・②の研修を５か所（酒田市総合防災訓練・山形市立第六小学校・なかやま保育園・山形市立本沢小学校・中山町中央公民館）体験研修を1か所（ファーラ）

	で実施、③・④では避難所の課題を洗い出し、改善点を探った。県総合防災訓練での気づきやセミナーなどで集めた声を基に、県民の避難生活に対して、直観的に役立つコミュニケーションシートを作成した。

事業の成果	地震時の災害想定を体験し、その上で具体的に自発的な防災活動を実施する為の情報提供や学びの場を創出する事業となったが、これまでの学ぶ知るという一方通行の防災教育では無く、学びを他者にフィードバックする体験を入れ込むことで、次の一手である、地域や職場での共助に活かしていく声が多く聞こえた。また、外部団体との連携が進み、来年度以降、活動しやすい体制が作れた。制作物を通じて、災害時の避難所での支援者（サポーター）を増やし、避難所の環境改善にも繋がるのではないか。研修体験・観覧者：500名程度
今後の展望	県市町村の策定している地域防災計画の被害想定を体験的に学べる地震体験マットYURETAを使用し、事前防災の大切さを伝えていく。YURETAを使用できる認定団体に関わる人材や団体、企業を増やし、災害時をどう生きるのか、そのための暮らしの工夫を進める自助の視点と、自身の暮らしを守るための共助との連携の視点を持つ人材を増やしていきたい。YURETAとあわせて、コミュニケーションシートの本格的な広報をしながら、体験者も実施者も増やしていく。











団体概要

団体名　ヤマガタ防災・減災Action！
代表者　細谷　真紀子
メール：
当団体は、男女共同参画の視点や人権の視点を持つ防災・減災活動を推進しています。お問い合わせは上記メールよりお問い合わせください。

令和７年度山形県ＮＰＯ活動促進補助事業

収支精算書

事業の名称	災害を生き抜き、暮らしを守る”ゲンサイライフサポーター”育成
団体名	ヤマガタ防災・減災Action！

１　収入の部

（単位：円）

区分	精算額	内容
県補助金	1,000,000	令和７年度山形県NPO活動促進補助金
当該事業による収入	0	
その他収入	969	Amazonポイント126p・レンタカーポイント843p
自己資金	3,053	団体会計より支出
合計	1,004,022	

２　支出の部

（単位:円）

区分	精算額	内容
謝金	40,000	外部講師謝金（20000円×2名）
旅費	104,900	会員,ボランティア交通費（団体規定により算出）
印刷製本費	52,741	広報チラシ11272円・資料コピー28869円・研修用冊子12600円
消耗品・材料購入費	318,302	運営材料教材費・展示用資材費、会場設営消耗備品費
通信運搬費	4,430	地震体験資材運送費 材料購入時送料
保険料	0	
使用料	207,499	レンタカー費用（移動、資材運搬用）・地震体験資材YURETAレンタル
人件費	177,150	研修実施および会場機器運搬・撤収用人件費（※5回、2～5名）
（委託費）	99,000	チラシおよびコミュニケーションボードデザイン料
（備品購入費）	0	
（修繕費）	0	
合計	1,004,022	

令和７年度　やまがた社会貢献基金助成事業　活動報告書

団体名	おうらの里おおやま再生プロジェクト		
事業名	庄内いこいの村チューリップ公園　再生プロジェクト 【日産プリンス山形　子どもから大人まで環境にやさしい社会づくり支援事業】		
助成事業区分	協働助成事業(テーマ希望型)		
団体の所在市町村	鶴岡市	事業費	485,072 円
		うち助成金額	484,087 円
事業実施期間	令和７年６月 11 日～令和８年２月 28 日まで		

事業目的・実施内容

（事業目的）

庄内いこいの村森林公園内に位置するチューリップ園は、1977年に公共温泉保養施設「いこいの村庄内」の隣接地に開設され、最盛期には約10万本のチューリップが咲き誇り、庄内地域の春を象徴する 風物詩として親しまれてきた。しかし、2016年に同施設が閉館し、以後、園の管理が停止したが、2018年より本法人を中心に、地域住民やボランティアの協力を得ながら園を再開し、規模を約3万本に 縮小しつつも維持活動を続けてきた。

しかし、近年、農地の脆弱化や資金不足、人材不足といった課題が残り、本再生プロジェクトでは、チューリップ園を荒廃から守り、庄内地域の重要な観光資源として復活させることを目的としさらに、チューリップ園の復活を通じて地域の魅力を高め、地域コミュニティの活性化を促進させ、環境にやさしく持続可能な地域づくりを目指そうというもの。

（実施内容）

1.農地の脆弱化の対策として、畑の深耕や圃場管理、菜の花などチューリップに似合う花の栽培などを専門農家より指導いただき取り組んだ。特にアイスチューリップの製造のため冷蔵設備を持っている農家、また菜の花栽培のノウハウがある三川町の農家などから指導助言をいただいた。さらに、地域住民やボランティア向けに「球根植え付けイベント」を開催。専門スタッフの指導のもと、植え付けや肥培管理の技術を学ぶと同時に、近隣保育園の園児による作業などを通し、共感を育むことが出来た。(チューリップの掘り起しや球根の皮むき、養生作業、球根の植え付けなどに、多数参加いただき、例年並みの規模(参加者延べ50人くらい)で作業を終えた。

2.アイスチューリップ製造と実験栽培(12月下旬～2月中旬)

・概要: クリスマスからバレンタインにかけて、温度管理技術で開花させた「アイスチューリップ」を、湯野浜温泉など近隣の観光施設や保育園などで寄贈し、引き続きの栽培管理をお願い画、時期が少しれたため、3月後半の開花見込みとなったことから、次年度の参考としたい。

(アイスチューリップの300珠製造し、湯野浜温泉協会に100球、近隣の四つの保育園に100球、露地での栽培実験に100球使用)

3.イベント用紙芝居制作　鶴岡の子育て支援組織の「だがしや楽校紙芝居部」とともに制作にあたり、庄内でのチューリップ栽培の物語や荒廃したチューリップ畑で生きる動物たちを題材とした創作紙芝居を制作し、湯野浜温泉の旅館に、近隣の保育園児を招き、紙芝居を披露し、今後は、湯野浜温泉湯広場でも一般公開型の紙芝居ライブで披露する。また、4月25日にはいこいの村チューリップイベントでの公演を実施。







事業の成果	チューリップ園の復活により、農地の荒廃防止や地域の観光資源としての魅力向上が期待される。また、遊休地の減少を図り、地域の景観を保全することができた。また、地域住民やボランティアの参加を通じてコミュニティの結束力が強化され、多世代交流や共助の精神を育むことが出来た。さらに、庄内の特産である枝豆の収穫期に活用した冷蔵庫で、チューリップの球根の休眠打破により、促成栽培が可能になったことから、さらに研究を深め、庄内地方におけるアイスチューリップの地域資源化につなげることができた。
今後の展望	農地の有効活用を進め、荒廃を防ぎながら地域の景観を保全させる。アイスチューリップの製造と温度管理のデータが取れたことから、次年度は少し開花の時期を早めて湯野浜温泉の春の集客に間にあわせ連携をさらに強化していく。また、近隣保育園などとも連携し、地域資源としてのチューリップを次世代にも継承するとともに、ボランティア精神を醸成できるよう努め、市民主導のチューリップ園により地域コミュニティの振興と活性化を推進させていきたい。







<u>団体概要</u>

団体名　おうらの里おおやま再生プロジェクト
　　庄内チューリップ倶楽部

代表者　中村恵二

URL　https://shonai-tulip.club/

令和７年度山形県ＮＰＯ活動促進補助事業

収支精算書

事業の名称	庄内いこいの村チューリプ公演再生プロジェクト
団体名	おうらの里おおやま再生プロジェクト

１　収入の部

（単位：円）

区分	精算額	内容
県補助金	484,087	令和７年度山形県NPO活動促進補助金
当該事業による収入		
その他収入	985	ポイント付与分
自己資金		
合計	485,072	

２　支出の部

（単位:円）

区分	精算額	内容
謝金	100,000	圃場管理、肥培管理、播種管理指導謝金
旅費		
印刷製本費	101,000	だがしや楽校紙芝居制作
消耗品･材料購入費	176,755	チューリップ球根、堆肥、プランター等
通信運搬費		
保険料		
使用料		
人件費	27,000	職員人件費
(委託費)	80,000	圃場深耕作業・アイスチューリップ冷蔵委託
(備品購入費)		
(修繕費)		
(その他)	317	振込手数料
合計	485,072	

令和７年度　やまがた社会貢献基金助成事業　活動報告書

団体名	カムイキッズ		
事業名	里山・森林再生拠点の設立：遊び・学び・暮らしが共に育つ場		
助成事業区分	協働助成事業（テーマ希望型）【テーマ：日産プリンス山形　子どもから大人まで　環境にやさしい社会づくり支援事業】		
団体の所在市町村	最上郡鮭川村	事業費	518,706 円
		うち助成金額	389,728 円
事業実施期間	令和７年６月 11 日～令和８年２月 28 日まで		

事業目的・実施内容

（事業目的）

農山村では人口減少に伴って里山の管理が放棄され、スギ・ヒノキの単一林化による生物多様性の低下や土砂災害リスクの増大が進んでいる。同時に、子どもが自然の中で道具を扱い挑戦する機会も失われつつある。本事業は、地域の森林資源と伝統的な木工技術（グリーンウッドワーク）を軸に、子ども・保護者・地域住民・教育機関が共に学び、遊び、暮らす拠点を最上地域に創出することを目的として実施した。

（実施内容）

①　子ども向け木工・自然体験ワークショップ（全４回・参加者15名）

こども木工WS（８月８日・鮭川村・６名）、ロックハウンド〔鉱物採集〕（９月20日・秋田県沿岸・３名）、KitoKitoグリーンウッドクラフト（９月21日・エコロジーガーデン新庄・３名）、こどもグリーンウッドクラフト（10月５日・無印良品新庄・３名）

②　大人向けグリーンウッド講座（全３回・参加者５名）

バターナイフ講座（９月27～28日・自宅工房・１名）、グリーンウッドスプーン講座（11月21日・ブックカフェコホンコホン・３名）、スプーンクラブ（11月27日・無印良品新庄・１名）

③　高等教育機関との連携事業（全３回・参加者58名）

きのこ彫刻体験（７月12日・東北農林専門職大学・39名）、Greenwood Day（11月23日・県立農林大学校・11名）、生態系サービスに関する講義（12月18日・東北農林専門職大学・８名）

④　地域の木材資源の循環

地元農家・果樹園・大学等から伐採木や剪定材の無償提供を受け、これまで廃棄されていた木材を教材・作品材料として活用した。



写真①　Greenwood Day：農林大学校の学生と木のスプーンを製作（11月23日）



写真②　大人向けグリーンウッドスプーン講座（11月21日・ブックカフェコホンコホン）

事業の成果	・年間10回のワークショップ・講座を開催し、のべ78名が参加した。子どもから大学生、社会人まで幅広い年齢層が、刃物の安全な扱い方や木取り・成形といった生木加工の技術と、その背景にある里山の生態系や資源利用の考え方を併せて学んだ。 ・東北農林専門職大学及び県立農林大学校との連携が実現し、学生・教職員のべ58名が参加した。さらに萌芽林の管理と森林区画の活用について協議を重ね、来年度以降の継続的な連携に合意した。 ・地元農家・果樹園等から木材の無償提供を受ける関係が生まれ、焼却・廃棄されていた剪定材・伐採木を教材として循環利用する地域内ネットワークの端緒を築いた。 ・無印良品新庄、エコロジーガーデン新庄、ブックカフェコホンコホン、鮭川村ゆーゆークラブ等との会場連携が広がり、活動の受け皿が最上地域全体に拡大した。
今後の展望	・鮭川村エコーパークでの屋外フィールド活動の実現に向け、引き続き村と協議を進める。 ・両大学校との共同プログラムを開発し、森林管理と木工技術を接続した学びの機会を継続的に提供する。 ・地域内の木材資源循環ネットワークを拡充し、未利用材が教材・製品として活かされる仕組みを整える。 ・講座参加費及び講師謝金による収入を安定させ、自立的な事業継続モデルの構築を目指す。



写真③　材料となる丸太の玉切り作業（９月27日・自宅工房）



写真④　グリーンウッドワークの解説（11月23日・県立農林大学校）

団体概要

団体名　カムイキッズ
代表者　ラーワー フレデリック アイザック
URL　https://www.kamuikids.org
山形県最上郡鮭川村を拠点に、森と里山を舞台とした子どもの自然体験・木工クラフト活動を行っています。

令和７年度山形県ＮＰＯ活動促進補助事業

収支精算書

事業の名称	里山・森林再生拠点の設立：遊び・学び・暮らしが共に育つ場
団体名	カムイキッズ

１ 収入の部

（単位：円）

区分	精算額	内容
県補助金	389,728	令和７年度山形県NPO活動促進補助金
当該事業による収入	55,000	講師謝金（県立農林大学校ほか）
その他収入		
自己資金	73,978	
合計	518,706	

２　支出の部

（単位：円）

区分	精算額	内容
謝金		
旅費	3,552	ガソリン代（222km×16円／km・９月20日ロックハウンド）
印刷製本費	16,250	イベント告知用ポストカード・ポスター印刷
消耗品・材料購入費	313,142	木工工具（斧・銑・のみ・ナイフ等）、参考図書、塗料・研磨材等、輸入関税
通信運搬費	35,762	工具・図書の国際送料
保険料		
使用料		
人件費	150,000	事業準備・運営・記録（代表１名）
（委託費）		
（備品購入費）		
（修繕費）		
合計	518,706	

令和７年度　やまがた社会貢献基金助成事業　活動報告書

団体名	暮らしの保健室やまがた		
事業名	男性高齢者のヘルスチェックと居場所づくり事業		
助成事業区分	協働助成事業（テーマ希望型）【テーマ：岡崎医療お節介プロジェクト 一人暮らしの 高齢者（もしくは老老世帯）の日常生活の見守り活動支援】		
団体の 所在市町村	山形市	事業費	372,300 円
		うち助成金額	113,000 円
事業実施期間	令和７年６月１１日～令和８年２月２８日まで		

事業目的・実施内容

（事業目的）

当団体は、地域住民が健康なうちから健康や介護等について専門職に気軽に相談できる場を設け、相談や学び等の事業を展開してきた。しかし、男性高齢者の参加が少ない。地域のコミュニティの活性化には男女ともに協働することが効果的であることから、男性にターゲットを絞った事業を展開する。男性のヘルスチェックと居場所づくりを行い、男女とも支え合える地域を目指し、コミュニティの活性化を図ることを目的とする。

（実施内容）

【男性高齢者の実態とニーズ把握と事業の検討】

令和7年9月、3か所の地域包括支援センターで調査し、男性が覚えたい、学びたいと思う内容をテーマにしたイベントを検討した。

【保健室事業の展開】

まちなか保健室七日町を32回、まちなか保健室八日町を34回開催し、①健康・介護相談、②健康教室、③交流の場づくりを行った。延べ984名の参加があった。

・イベント第1回　テーマ「大笑いハッピーマジック」

実施日：令和7年12月26日　参加者：27人（うち男性5人）

お正月に家族にマジックを披露し家族を驚かせることが出来るよう、参加型で学べる内容とした。

・イベント第2回　テーマ「男性でも作れる簡単栄養ごはん」

実施日：令和8年1月9日　参加者：27人（うち男性5人）手に入れやすい素材で簡単に調理でき、栄養バランスのとれた料理を紹介した。

「大笑いハッピーマジック」令和7年12月

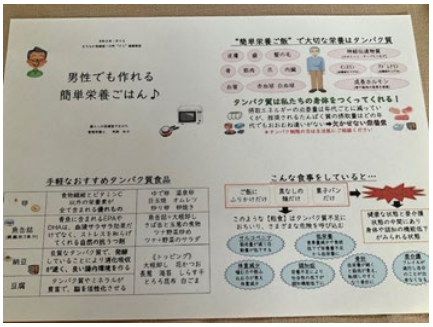




事業の成果	2つのまちなか保健室の活動は、期間中の利用者数が1,000名近かったことから、地域住民が健康なうちから健康や介護等について専門職に気軽に相談できる場として、保健室が地域住民に受け入れられたものと評価できる。 しかし、男性にターゲットを絞った事業の男性参加者は2回とも5名(19%)で、新規の参加者はいなかった。参加者30名に行ったアンケート（男性5名を含む）によれば、保健室に来ることで「友人・知人との交流やつながりを増やすのに役立った」と回答した男性が「大いに役立った」「役立った」合わせて93.4%だった。このことからまちなか保健室は地域のサードプレイスとして新たなつながりを創出していることが明らかになった。高齢者の孤独・孤立を防ぎ、助け合える地域づくり、コミュニティの活性化に貢献できる可能性が示唆された。
今後の展望	男性高齢者の参加者数の増加はなかったが、アンケートからほぼ毎週継続して参加している男性が5名いること、参加者の満足度が高いことがわかった。まずは保健室に足を運んでもらう最初の一歩が課題だと考える。 そのためには、男性が集まる場所での広報など、保健室の存在を知ってもらう取り組み、足を運ぶきっかけとして興味を引く健康教室などのイベントの企画を継続して検討したい。 また、地域のサードプレイスとして充実させるために、健康・介護相談、健康教室、居場所づくりの3本柱を軸に地域の皆様に信頼される活動を続けます。

「男性でも作れる簡単栄養ごはん」令和8年1月





まちなか保健室八日町



まちなか保健室七日町



団体概要

団体名　暮らしの保健室やまがた
代表者　大竹まり子
URL
https://kurahoygt.wixsite.com/home
保健・医療・福祉等の専門職ボランティア団体です。「まちなか保健室」に気軽にお立ち寄りください。

令和７年度山形県ＮＰＯ活動促進補助事業

収支精算書

事業の名称	男性高齢者のヘルスチェックと居場所づくり事業
団体名	暮らしの保健室やまがた

１　収入の部

（単位：円）

区分	精算額	内容
県補助金	113,000	令和７年度山形県NPO活動促進補助金
当該事業による収入	77,661	八日町保健室運営協力金
その他収入	145,431	民間助成金の前年度繰り越し金、ポイント2点
自己資金	36,208	会費等
合計	372,300	

２　支出の部

（単位:円）

区分	精算額	内容
謝金	53,000	外部講師　謝礼 5,000円×8人、3,000円×1人、 1,000円×10人
旅費	115,550	七日町相談員　1,000円×41人 八日町相談員　500円×100人 八日町活動会員　300円×５１人 市外交通費：ガソリン代
印刷製本費	6,192	チラシ、名刺
消耗品･材料購入費	195,016	コピー用紙、プリントートナー、文具、茶菓子、紙コップ、トイレットペーパー、除菌スプレー、除菌テッシュ、BOXテッシュ、衛生用品、スタッキング椅子、血圧計・聴診器、DVDプレーヤー、マイクスピーカー
通信運搬費	792	印刷物送料
保険料	1,750	ボランティア保険
使用料		
人件費		
(委託費)		
(備品購入費)		
(修繕費)		
合計	372,300	

令和７年度　やまがた社会貢献基金助成事業　活動報告書

団体名	北庄内食援隊		
事業名	食支援を通じて高齢者の居場所づくり		
助成事業区分	協働助成事業　テーマ希望型 【岡崎医療お節介プロジェクト　一人暮らしの高齢者(もしくは老老世帯)の日常生活の見守り活動支援】		
団体の所在市町村	山形県酒田市	事業費	404,316 円
		うち助成金額	352,148 円
事業実施期間	令和７年７月６日～令和８年２月２８日まで		

事業目的・実施内容

（事業目的）

近年、高齢者の独居、閉じこもりのような社会的フレイルが身体的フレイル（フレイル・オーラルフレイル）の始まりと言われている。酒田市も高齢化率が高い現状があり、このような状態にある方から積極的に参加いただき、フレイル予防の機会としたい。嚥下に障害があり困っている方へ助言を行ったり、参加の様子を観察して問題になりそうな場合、早期にケアマネジャー等に繋げる。また、在宅高齢者やその家族を対象にやわらか食の料理教室を開催し、調理力の向上とともに料理のレパートリーを広げ、食べる喜びにつなげたい。食の都庄内で最後まで美味しく楽しく口から食べることを諦めない為、医療・福祉・介護の多職種だけでなく異業種（料理人・生産者・地元大学など）と一緒に”地域全体で地域を支える”活動を行っていく。

（実施内容）

① 地域食堂やわらかふぇCome×comeの開催（３回）

開催地・会場を固定せず、閉じこもり防止、友達作りの機会、さらに口腔-栄養-運動・リハビリの重要性の啓蒙と三位一体のアプローチを行いながらフレイル予防の機会とする。

＜第１回＞７／６（日）遊佐町生涯学習センター
＜第２回＞11／１６（日）庄内町余目第一まちづくりセンター
＜第３回＞２／８（日）琢成学区コミュニティ防災センター
各回の内容：【１】食に関する講話　【２】レクリエーション「パタカラ選手権」
【３】みんなで会食「季節の食材を使ったやわらかフレンチ」

②やわらか食の料理教室「やわらかふぇCome×Comeクッキング」の開催（２回）

※商業施設いろは蔵パーク内キッチンスタジオiGotで開催し市民へのPRも出来た。
在宅高齢者やその家族に向けて、家庭でも実践できるメニュー内容とした。

＜第１回＞１０／５（日）
内容：やわらか栗ごはん、サバーグの和風あんかけ、里いものおろし煮
＜第２回＞１２／２１（日）
内容：カップケーキ寿司、天ぷらの揚げだし、ゆっくり食べるクリームソーダ

③市民の健康増進を目的としたイベント「なかまち健康まつり」への出展

１０／１２（日）本間病院前の広場にて
内容：「自家製やわらかパン（やわらかふぇにて提供中）」と「㈱桔梗屋織居おかゆ大福」の試食と、嚥下食についての啓蒙活動。





事業の成果	① やわらかふぇ参加者： 第1回15名（リピーター5名）、第2回27名（リピーター6名） 第3回15名（リピーター9名）、延べ参加者57名（リピーター20名） ※リピーターの定着とあわせて新規参加も増えている。 ②かむかむクッキング参加者： 第１回8名、第２回9名、延べ参加者16名（かふぇにも参加のリピーター3名） ・開催地を酒田から遊佐町と庄内町にも拡大することが出来、嚥下食に大変興味を持たれた。庄内町では、介護家族者交流会事業と一緒に開催し、次年度も要望をいただいている。 ・実際に嚥下障害のある方やその介護をする当事者の参加が増えてきている。 ・参加者の楽しみやリフレッシュなど外出の機会への貢献、研修や情報交換の場として重宝されている。
今後の展望	・閉じこもり防止がフレイル予防に繋がること、食の大切さ、最後まで口から食べる事を諦めないなどを市民に啓蒙する機会として活動を継続したい。そのための資金調達や、まだ参加したことの無い方へのアプローチには課題が残る。 ・「『食べたい』『おいしそう』と感じることから食欲などの意欲に繋がると実感、食にまつわる環境づくりも大切だと感じたことから、当事者も介護者も一緒に外食を楽しめる機会を作りたい。そのためにホテルのシェフとレストランで嚥下食を提供するバリアフリーのお食事会開催を計画中。 ・上記実施し、地域に嚥下調整食の周知や関心を持ってくれる料理人を増やし、当事者も介護者も一緒に笑顔で食事が出来る飲食店を増やすことに寄与していきたい。







<u>団体概要</u>
団体名　北庄内食援隊
代表者　大沼寛
「人生の最期まで口からおいしく、楽しく食べてもらいたい」という情熱を持った医療・介護・調理師・行政関係者などの有志が集まって活動しております。

令和７年度山形県ＮＰＯ活動促進補助事業

収支精算書

事業の名称	食支援を通じて高齢者の居場所づくり
団体名	北庄内食援隊

１　収入の部

（単位：円）

区分	精算額	内容
県補助金	352,148	令和７年度山形県NPO活動促進補助金
当該事業による収入	52,000	①参加費500円×74名 ②11/16庄内町謝金15,000円
その他収入	168	※１ポイント１円
自己資金		
合計	404,316	

２　支出の部

（単位:円）

区分	精算額	内容
謝金		
旅費	51,500	500円×71回（当日運営） 500円×11回（前日調理）500円×21回（事前打合せ）
印刷製本費	8,820	
消耗品･材料購入費	209,486	おわん食器、食材等
通信運搬費		
保険料	4,750	
使用料	41,990	調理室・会場使用料
人件費	87,000	1000円×71回（当日運営） 500円×11回（前日調理）500円×21回（事前打合せ） ※前日と事前打合せは短時間のため0.5回換算
(委託費)		
(備品購入費)		
(修繕費)		
その他	770	手数料
合計	404,316	

令和７年度　やまがた社会貢献基金助成事業　活動報告書

団体名	ＮＰＯ法人えき・まちネットこまつ		
事業名	こども農園と食農教室で学び育む食育推進事業		
助成事業区分	協働助成事業(テーマ希望型)		
団体の所在市町村	川西町	事業費	321,433 円
		うち助成金額	321,403 円
事業実施期間	令和７年９月３日～令和８年２月２８日		

事業目的・実施内容

（事業目的）

令和の米騒動に象徴される物価高騰は家計を直撃し社会的悪影響を及ぼしてきた。その最たるものは、経済的弱者に対するダメージであり、特に低所得世帯は一層困窮を深めてきた。このことにより、食生活の窮状が深まり、本来、子どもの成長に欠かすことができない食事を、欠食せざるを得ない状態も見られた。本事業は、こども農園によって自ら栽培した食材を手に入れ、それを自ら調理し楽しく食する自助の養成に力を注ぎながら、子ども食堂や子どもへの食育支援などを行い、子どもたちの健康を支え、望ましい食生活を推進することを目的とした。

（実施内容）

１．こども農園事業・・９月から１２月まで、秋野菜の栽培、大豆収獲などを通した栽培体験　合計５回開催

２．フードパントリー事業・・置賜地区内４箇所に設けたフードドライブコーナーで寄付を受け食品を無料で提供する支援活動。合計６回。

３．子ども食堂や食材配布事業・・こども農園で収穫した農作物やフードドライブで寄贈された食材を活用し調理教室や子ども食堂、食材提供を開催　月１回、合計６回。

４．食農教室の開催・・子どもや子育て世代に、食の提供と学習の場提供を目的にした農業と食に関する居場所づくりを開催　月１回、合計６回。

５．地元高校生と連携した食育活動・・地元高校生に呼び掛けた食育活動を実施、随時、合計５回程度。



【第2回食農教室・パン作り】



【第5回こども農園・キャベツ、白菜収穫】

事業の成果	１．こども農園・調理教室・・6回開催、参加者延べ77人 ２．フードパントリー事業・・・６回開催　参加者延べ４９５人 ３．子ども食堂や食材配布事業・・・７回開催、参加者延べ１２０人、配布食事数５６５食 ４．食農教室の開催・・・・６回開催、参加者延べ９８人 ５．地元高校生と連携した食育活動・・・６回開催、参加者数延べ711名 以上によって食材を自ら手に入れる機会を設定し、定期的な子ども食堂や食材配布による食の貧困救済を進めた。また、それらの機会に食農教室や食育講座を開設し、子どもの居場所作りを実施。総延べ開催数３１回、総延べ参加者数１５００人、提供食事数５６５食、提供食材７２０ｋｇ
今後の展望	１．支援企業や団体の拡充が実現し、自主運営が可能な状態までステップアップする。 ２．子ども食堂や食育活動の運営に対するクラウドファンディングなど資金調達に挑戦する。 ３．高校生のボランティア組織を創設し、運営や活動を支援しながら、継続と拡大に向け本ＮＰＯのノウハウを提供していく。 ４．令和８年度に開設する川西町地域振興拠点施設「まちなかテラスまちりあ」を利用した高校生や住民の食育や居場所づくりへの参加を誘導し、社会活動を涵養する。



【第3回食育教室（福祉ひろばと連携）】



【第2回食育教室　紅大豆カレーづくりと会食】



【第3回子ども食堂・第2回フードパントリー】

団体概要

団体名　特定非営利活動法人えき・まちネットこまつ
代表者　江本一男
URL https://www.npo-ekimachi.org/
住所　東置賜郡川西町大字上小松1644
電話0238-42-2533　FAX0238-42-2730
Email　eki-mn-7@ms5.omn.ne.jp

令和７年度山形県ＮＰＯ活動促進補助事業

収支精算書

事業の名称	こども農園と食農教室で学び育む食育推進事業
団体名	NPO法人えき・まちネットこまつ

１　収入の部

（単位：円）

区分	精算額	内容
県補助金	321,403	令和７年度山形県NPO活動促進補助金
当該事業による収入		
その他収入	30	ポイント収入
自己資金		
合計	321,433	

２　支出の部

（単位:円）

区分	精算額	内容
謝金	61,000	別紙内訳書参照
旅費		
印刷製本費	31,090	チラシ印刷代
消耗品・材料購入費	126,343	こども農園肥料、野菜苗など
通信運搬費		
保険料		
使用料	18,000	会場使用料
人件費	85,000	食育教室準備・運営・片付け
（委託費）		
（備品購入費）		
（修繕費）		
合計	321,433	

令和７年度　やまがた社会貢献基金助成事業　活動報告書

団体名	工房　森の月かげ		
事業名	①「森の月かげ文化祭 In 上山城」 ②「工房 森の月かげ 収穫祭」		
助成事業区分	協働助成事業（テーマ希望型） 【(株) 東北シーアイシー研究所 40 周年芸術等を通したまちづくり活動支援事業】		
団体の所在市町村	上山市	事業費	５４９，８７０円
		うち助成金額	４５０，０００円
事業実施期間	令和　７年　６月　１１日　から　令和　８年　２月　末日		

事業目的・実施内容

（事業目的）

多くの地方都市が直面する人口減少や少子化の影響で、上山市でもいくつかの学校が廃校となりました。これらの施設は放置されると老朽化が進み、地域の景観を損なう要因となりかねません。そこで、廃校を地域資源として活用することを目的として上山市と東北芸術工科大学が協力し、当時、廃校の1つであった旧宮生小学校を芸術の拠点に再生することとなりました。そこで地域の文化的価値を高める取り組みとしてスタートしたのが「工房 森の月かげ」です。

本事業では、今まで所属メンバーの自費で賄われてきたイベントの規模を拡大し、上山市の芸術活動を通したまちづくりの一端を担えるよう、より一層コンテンツの充実化を図ります。

（実施内容）

①時期：９月14日（日）～９月27日（土）
※題を「出没！工房 森の月かげ in 上山城」へ変更
上山城多目的ホールにて森の月かげの活動記録やメンバーの作品を展示。来場者への活動の周知と、10月開催の収穫祭の広報を行った。また、27日には山形美術館学芸員岡部信幸さん(旧 宮生小学校卒業生)と森の月かげ創設メンバーであった大山龍顕さんにお越しいただき、「創設に至る変遷」や「森の月かげの意義」などについて代表三瀬夏之介の司会でトークイベントを行いました。
②開催日時:10月25日（土）10：00～15：00
制作活動拠点となる「工房 森の月かげ」を舞台として以下の活動を行いました。
・教室をアートギャラリーとして、月かげのアーティストによる作品展示。
・体育館をコンサートホールとして活用して、上山市出身の音楽家 伊藤萌さんによるコンサートを開催。
・東北芸工大 総合美術コースの学生によるワークショップを開催。地域の方々が参加し芸術に触れる機会の創出を図りました。

①「出没！工房 森の月かげ in 上山城」のようす





事業の成果	当日は上山や山形にゆかりのある地域のお店にもご出店（飲食関係３組、衣料品１組、そのほか委託での販売も行いました。当日は５時間で200人近く来場され、終始賑わう様子が見られました。 事業費の活用によって、本団体が使用する機器（マイク、アンプ、映像機器など）の充実や、新たな広報物作成に関わるデザイン費用、森の月かげを現役の芸工大学生にも知ってもらうため、学生スタッフにも運営のアルバイトとして積極的に関わってもらうことができました。 （右写真：2025年度 収穫祭チラシ） 
今後の展望	本事業の実施に関わって、地域の公民館（宮生地区公民館）との交流機会も増えたことも重なり、令和８年度はイベント（収穫祭）の実施に向けて公民館からも積極的にご協力いただけるはこびとなりました。また、市内公民館の職員の方々が集まる研修（Ｒ８年度は宮生地区公民館の担当）では月かげ施設内の見学（総勢約４０名）を実施。その後、宮生地区公民館にて月かげの変遷や展望についての講話をさせていただきました。 今後は宮生地区だけでなく、市内の公民館とも少しずつ連携を図り、芸術やものづくりに関わる事業の依頼を受けたり、関係機関などへのハブとして森の月かげに所属するメンバーが関わることができる組織づくりや、市民、県民のみなさまへ団体の認知の拡大を目指していきます。

②「工房 森の月かげ 収穫祭」の様子

PROJECT「工房 森の月かげ 収穫祭」（2025）①







団体概要

団体名　工房　森の月かげ　代表者　三瀬夏之介（東北芸術工科大学 教授）

問い合わせ：東北芸術工科大学 三瀬研究室（０２３―６２７―２１１８）

令和７年度山形県ＮＰＯ活動促進補助事業

収支精算書

事業の名称	①「森の月かげ文化祭 In 上山城」／②「工房 森の月かげ 収穫祭」
団体名	工房　森の月かげ

１　収入の部

（単位：円）

区分	精算額	内容
県補助金	450,000	令和７年度山形県NPO活動促進補助金
当該事業による収入	7,000	グッズの物販、ワークショップ参加費
その他収入	6,800	委託販売分
自己資金	86,070	
合計	549,870	

２　支出の部

（単位:円）

区分	精算額	内容
謝金	114,000	トークゲスト2名(54,000円)、音楽ゲスト(40,000円)、ワークショップゲスト(20,000円)
旅費		
印刷製本費	147,587	広報物作成(デザイン、印刷経費など)
消耗品･材料購入費	151,540	アンプ、スクリーン、展示台など
通信運搬費	1,650	※消耗品に含まれる送料
保険料		
使用料	30,552	搬入に関わるトラック借用費用
人件費	25,000	学生スタッフアルバイト
(委託費)		
(備品購入費)	61,541	プロジェクター
(修繕費)		
(飲食費)	18,000	スタッフ用昼食（アルバイト含む）
合計	549,870	

令和７年度　やまがた社会貢献基金助成事業　活動報告書

団体名	つるおか伝統木構法千年塾(くむんだー山形)		
事業名	木のジャングルジムで森林循環教育と日本の伝統木構法技術体験		
助成事業区分	協働助成事業（テーマ希望型） 【㈱山形銀行　山形の豊かな自然を守る環境保全支援事業】		
団体の所在市町村	鶴岡市	事業費	1,018,972 円
		うち助成金額	900,000 円
事業実施期間	令和７年９月８日～令和８年２月２８日まで		

事業目的・実施内容

（事業目的）

当団体では、子どもの頃から大工の仕事や地元の山・木に興味関心を持ってもらうため、鶴岡産杉材のみで製作した木製ジャングルジム（以下：くむんだー）を様々なイベントに出展し、ミニ棟梁体験と鶴岡産杉材の良さを伝える活動を行ってきた。

くむんだーでの活動についてはイベントだけではなく、学校の課外授業などでも利用できる可能性が多くあり、要望もあることから、より多くの子ども達へ森林循環の大切さと大工職人が支える建設業の重要性を伝える体験活動を拡大させ、継続していく契機としたいと考え提案するもの。

（実施内容）

９月	事業開始打合せ 販売用くむんだーパーツ製作開始 「まなぶ」の資料作成開始
10月18・19日	つるおか大産業まつり(森とみどりのフェスティバル)出展 ▶２日間で２３０名の児童が参加
12月25日	酒田市大沢地区で体験学習 ▶ 地区児童１０名参加
２月11日	鶴岡市自然学習交流館ほとりあのイベントへの出前体験 ▶４７名の親子が参加





事業の成果	◎酒田市大沢地区への出前対応が実現できたのは、大きな成果の一つとなった。今回の活動は「山からの自然災害は驚異的なものであるものの、自然は恐れるものではなく、人と共存して生きていくものである」ということを、子ども達に感じてもらいながらアクティビティの機会にするという目的だったため、充実した時間となった。 ○大産業まつりの森フェスでは、史上最多の人数参加があった。リピーターも確実に増え、一人ひとりの滞在時間も伸びている傾向にある。 ○ほとりあの出前体験は、昨年の経験を踏まえ午前と午後の２回を予約制にして受付することとした。今回から作成できたまなびの時間の動画で山の木の役割や貫工法の説明についてきちんと行うことができてよかった。子ども達も動画に興味を持って見てくれたのは成果が出せたと思う。またリピーターの小学生が見本となって、初めての子や未就学児の子のサポートをしてくれるように促し協働して完成させる体験になったのはよかったと感じている。
今後の展望	子ども達が、くむんだー以外でも森林循環についての学びや協働で組み立て大工技術の素晴らしさを伝えられる木育教材の検討を進めたい。 ひとりでも取り組める木育教材やくむんだー以外の協働で体験ができるものを更に展開し、様々な刺激を与えられる活動を増やしたい。 　また活動をいよいよ県内全域まで広げ、鶴岡で積極的に行ってきた森林と経済の循環活動についても多くの県民に知ってもらう機会を増やしていきたい。







団体概要

団体名：くむんだー山形
（運営：つるおか伝統木構法千年塾）
代表者：劔持　大輔
連絡先：tsuruoka.sennenjuku@gmail.com
ＳＮＳ：

TSURUOKA.1000NEN.JUKU

令和７年度山形県ＮＰＯ活動促進補助事業

収支精算書

事業の名称	木のジャングルジムで森林循環教育と日本の伝統木構法技術体験
団体名	つるおか伝統木構法千年塾(くむんだー山形)

１　収入の部

（単位：円）

区分	精算額	内容
県補助金	900,000	令和７年度山形県NPO活動促進補助金
当該事業による収入	10,000	ほとりあ対応謝金
その他収入		
自己資金	108,972	スタッフ持出し金
合計	1,018,972	

２　支出の部

（単位:円）

区分	精算額	内容
謝金	133,960	くむんだーメンテナンス費
旅費		
印刷製本費		
消耗品･材料購入費	742,452	くむんだーパーツ購入費、消耗品 スタッフ用備品
通信運搬費	142,560	くむんだー運搬費
保険料		
使用料		
人件費		
(委託費)		
(備品購入費)		
(修繕費)		
合計	1,018,972	

令和７年度　やまがた社会貢献基金助成事業　活動報告書

団体名	特定非営利活動法人 Sisterhood		
事業名	母子のみ世帯への育児・家事訪問支援アウトリーチ事業		
助成事業区分	協働助成事業（テーマ希望型）【ひとり親家庭支援活動支援事業】		
団体の所在市町村	山形市	事業費	1,072,415 円
		うち助成金額	1,000,000 円
事業実施期間	令和７年７月１日～令和８年２月末日まで		

事業目的・実施内容

（事業目的）
東南村山地域内のひとり親の世帯数は、令和元年時点で母子のみ世帯1426・父子のみ世帯116となっており、圧倒的に女性が多い傾向がある。また、女性の賃金が全国で下から二番目の山形県において、シングルマザーの生活は相当に厳しい現状がある。当団体のスタッフにも子育て中のひとり親がおり、折に触れて女性が1人で子育てすることの困難を目の当たりにしてきた。そこで昨年度から、試験的に育児支援と家事代行のサービスを行ってみたところ、予想以上の反響があった。「大人の人と久しぶりに会話をした」「両親には頼れない事情があり、来てもらえて助かった」「土日にまとめて家事をしたいのに、子どもがいるとなかなか進まない」などという感想が寄せられた。家事育児に対する体力的な面だけでなく、DV等の理由で逃げてきた（ひとり親家庭になったことに伴い山形県に転入した母子家庭が、ひとり親世帯全体の16%）ために地域の中につながりを持たず、孤立を深め、悩みを1人で抱え込む女性の方の存在も見えてきた。自治体等の支援サービスも存在するが、回数制限や申し込みの煩雑さ、利用条件があってなかなか利用しにくい側面があるという。そのような部分を補完する支援活動を展開していきたい。また、家庭に入ることによって見えてくる、ひとり親家庭の抱える困難やニーズ調査としても機能させていく。一方、経済的な負担が難しい現実もあるため、当事者が最低限の負担で気軽に利用できるようにする。訪問するスタッフが家事育児の負担を減らしたり話を聞いたりするだけでなく、当団体が開催している「女性の居場所」事業にもつなぎながら、困難を抱える女性のひとり親のアウトリーチとして実験的に事業を作っていく。

（実施内容）
村山地域内でひとり親の方が、気軽に利用できる訪問型の育児と家事の支援サービスを展開した。７ヵ月で48回（総数10家庭）の訪問（1回につき2時間程度）を行った。2人で訪問し、1人が子育ての悩みや大変さを共有し、寄り添いながら育児支援をし、もう1人が掃除・引っ越し準備等の家事支援をした。山形市内よりも、村山市、東根市、尾花沢など遠方の方からの依頼が圧倒的に多く、ひとり親に対する支援が十分行き届いていない現状が察せられた。

事業の成果	さまざまな困難を抱えるシングルマザーの方とお会いし、転職、収入に伴う支援の打ち切り、子育ての悩み、孤独感など、生の声をお聞きすることができた。訪問回数を重ねるごとに信頼感が高まり、さまざまな相談や悩みを打ち明けてもらえるようになっていったケースが多い。就労に関しては、キャリアバンクやハローワークなどのサービス情報を提供し、実際の支援につながった事例もあった。子育てに関する悩みをお聞きすることで「気持ちが楽になった」「大人と話せてうれしい」といったお声も頂戴した。また、男性のひとり親の方からもご依頼をいただき、女性とはまた違った困難（シングルファザーは目立つ、料理が苦手、子育てを相談できる人が少ない）があることも伺えた。
今後の展望	事業期間内にスタッフが県の子育て支援員研修を受けたのちに認可外保育所の届け出をした。これにより、保育の質を高め、より安心安全に利用できるようになった。また事業の中でひとり親の方からお聞きした困難（頑張って収入を増やした結果、手当てがなくなって生活が苦しい、他に頼れる人がいなくて苦しい、等）をもとにより適切な支援の在り方を模索していくと同時に、行政等に当事者の声を届ける活動を展開していく。







団体概要

団体名　特定非営利活動法人Sisterhod
代表者　小笠原千秋
URL　https://sisterhood-yamagata.com/

令和７年度山形県ＮＰＯ活動促進補助事業

収支精算書

事業の名称	母子のみ世帯への育児・家事訪問支援アウトリーチ事業
団体名	特定非営利活動法人Sisterhood

１　収入の部

（単位：円）

区分	精算額	内容
県補助金	1,000,000	令和７年度山形県NPO活動促進補助金
当該事業による収入	22,500	４５人×@500
その他収入		
自己資金	49,915	
合計	1,072,415	

２　支出の部

（単位:円）

区分	精算額	内容
謝金	10,000	ﾍﾞﾋﾞｰｼｯﾀｰ研修謝金
旅費	50,730	交通費
印刷製本費	88,000	チラシデザイン、印刷費
消耗品・材料購入費	86,973	おもちゃ、掃除用具代
通信運搬費	21,770	切手代
保険料	20,942	損害賠償保険料
使用料		
人件費	594,000	人件費
（委託費）	200,000	ランディングページデザイン、mamaid11月号掲載料
（備品購入費）		
（修繕費）		
合計	1,072,415	

令和７年度　やまがた社会貢献基金助成事業　活動報告書

団体名	特定非営利活動法人やまがた絆の架け橋ネットワーク		
事業名	寒河江市ひとり親家庭支援事業		
助成事業区分	協働助成事業（テーマ希望型）【ひとり親家庭支援活動支援事業】		
団体の所在市町村	寒河江市	事業費	1,036,850 円
		うち助成金額	1,000,000 円
事業実施期間	令和７年７月１日～令和８年２月２８日まで		

事業目的・実施内容

［事業目的］

令和５年度に本助成金にて活動を行った結果、中学生以上の学習支援活動に対し寒河江市が予算を付け事業化するに至り大きな成果を上げた。しかし、小学生以下の支援については、行政、民間を含め支援が無い部分であるため、小学生の学習支援を軸に、保護者との接点を増やし子育ての相談や学習、進学についての相談を受ける体制を作る。また、食材の支援などを同時に行い、官民連携したひとり親家庭等の支援を行い、ひとり親でも安心して子育て出来る環境、ハンデを受ける事無く進学出来る環境づくりを目的とする。

［実施内容］

【学習支援活動】

ひとり親家庭等の学習支援は中学生以上は寒河江市の予算で実施されるが、同じ会場、同じ時間帯を利用し、小学生対象の学習支援を７月から２月までの８ヶ月間で３２回実施した。また夏休みと冬休みは別会場で特別学習会を実施した。特別学習会は午前２時間、午後２時間で２回分の開催としてカウント、宿題を中心とした学習会にした。また不定期だが、保護者との話し合いの場を持ち、家庭での学習状況、学習支援での学習状況の情報共有を行い、学習の方向性を決めて行った。

学習会対象者：小学３年生～小学６年生、のべ７５人が参加（実人数８人）

【教育相談会の実施】

計画では３回実施の予定だったが、学習支援と食材支援に手がかかってしまい、１回の実施にとどまった。現在の高校入試、大学入試の仕組みを説明し、ひとり親家庭でも大学進学は決して夢では無い事をわかりやすく解説、小学生、中学１年生頃に聞きたかったとの感想があった。

教育相談会：12月6日（土）参加者中学３生の保護者５名

【ひとり親交流会】

今回、夏と冬に１回づつの開催予定であったが、夏は参加者が集まらず、冬は２月１４日に開催を予定したが、インフルエンザ流行に伴い、参加辞退が相次いだため中止とした。結果的に開催が出来なかったため、事業の進め方として大きな反省点になった。

【ひとり親家庭食材支援】

フードパントリーを２回実施した。今回は特に米の支援をどうにかする必要があるとの事で、米の確保を優先した。米の支援は２回行い、副食材は１回（９月と１２月に半分づつ）実施した。

フードパントリー：

９月３日～５日お米提供世帯５５世帯　支援対象人数１４２人うち子ども８７人
副食材提供世帯３０世帯　支援対象人数８０人うち子ども５０人

１２月１９日～２２日お米提供世帯５５世帯　支援対象人数１４４人うち子ども８９人
副食材提供世帯３０世帯支援対象人数８３人うち子ども５２人

事業の成果	寒河江市内に限定した活動にはなるが、必要としている人へ必要な支援を着実に届けるという点を最大に考慮した。当方のアンケートで一番要望が多かった、お米の支援を第一に優先した。食材の支援は継続して行ってきたが、年々切実な声が大きくなっており、十分とは言えないまでも応えることができたと思う。更に令和8年度寒河江市で食材支援の一部を予算化し、当団体と連携する事になっており、本事業の大きな成果と考える。学習支援では子ども一人一人の学力が向上してきており、学習会に来ることが楽しいという声が聞かれ、少しずつだが成果が出ていると考えている。学習相談会に関しては、毎年やって欲しいとの声が上がっており、来年度早々に実施する事にしており、定期的な開催に繋がった。交流会に関しては残念な結果となったが、今後も同様の活動は継続して行きたいと考えている。
今後の展望	当団体の活動が寒河江市の事業になるケースが２つ発生した。今後とも行政ほか関係団体と連携し、活動を継続して行く。「ひとり親になっても寒河江では子育てができる」という環境を作っていく。



R7.9.3　フードパントリー



R7.8.3　学習支援夏休み特別学習会



R7.11.22　学習支援



R7.12.19　フードパントリー



R7.12.28　学習支援冬休み特別学習会

団体概要

団体名　特定非営利活動法人
　　やまがた絆の架け橋ネットワーク
代表者　代表理事　早坂　信一
所在地　寒河江市本町二丁目8－3
　　フローラＳＡＧＡＥ2階
TEL 0237-85-1070　FAX 0237-85-1071
URL　https://kakehasi.jpn.org/

令和7年度山形県ＮＰＯ活動促進補助事業

収支精算書

事業の名称	寒河江市ひとり親家庭支援事業
団体名	特定非営利活動法人やまがた絆の架け橋ネットワーク

１　収入の部

（単位：円）

区分	精算額	内容
県補助金	1,000,000	令和７年度山形県NPO活動促進補助金
当該事業による収入		
その他収入		
自己資金	36,850	
合計	1,036,850	

２　支出の部

（単位:円）

区分	精算額	内容
謝金	226,500	学習支援講師@2,200円×のべ44名@2,700円×のべ46名 学習相談会スタッフ@6,000円×1名
旅費		
印刷製本費	6,800	チラシ作成@6,800円×1回
消耗品･材料購入費	416,900	食材支援副食材171,180円　お米240,000円　米袋5,280円 文房具440円
通信運搬費	44,000	公式LINEアカウント5,5000円/ 月×8ヶ月
保険料		
使用料	11,000	特別学習会会場費@11,000円
人件費	319,550	スタッフ人件費
その他の費用		
弁当代	12,100	学習会弁当
合計	1,036,850	

令和７年度山形県ＮＰＯ活動促進補助事業

収支精算書

事業の名称	困難を抱えた家庭を地域で支えるための地域の繋がりづくり事業
団体名	ままらんぼ母親クラブ

１　収入の部

（単位：円）

区分	精算額	内容
県補助金	887,625	令和７年度山形県NPO活動促進補助金
当該事業による収入		
その他収入		
自己資金	90,713	
合計	978,338	

２　支出の部

（単位:円）

区分	精算額	内容
謝金	40,000	謝礼@10,000×4名
旅費	74,610	スタッフ交通費　お出かけ交通費
印刷製本費	122,810	チラシ等
消耗品･材料購入費	363,918	食材費、商品代、地域探検隊材料費、事務用品費等
通信運搬費		
保険料		
使用料	20,000	イベント時使用料　＠10,000×2回
人件費	357,000	＠1,000×357時間（4名分）
（委託費）		
（備品購入費）		
（修繕費）		
合計	978,338	

令和７年度　やまがた社会貢献基金助成事業　活動報告書

団体名	ままらんぼ母親クラブ		
事業名	困難を抱えた家庭を地域で支えるための地域の繋がりづくり事業		
助成事業区分	協働助成事業（テーマ希望型）【ひとり親家庭支援活動支援事業】		
団体の所在市町村	東根市	事業費	978,338 円
		うち助成金額	887,625 円
事業実施期間	令和７年９月３日～令和８年２月 28 日まで		

事業目的・実施内容

(事業目的)

私たちは、全ての子どもにとっての最善の利益を得るために、世代間交流や児童の事故防止の活動、児童福祉に関する活動をしてきた。現代の貧困は、経済的にはもちろん、経験、つながりの貧困もあるように感じている。困難を抱えた家庭が孤立することなく安心して生活できる環境をつくりながら、親子が地域の人たち中でいろいろな体験をしたり地域の人と繋がることで、親は健やかに、子どもはたくましく育つ環境をつくっていく。またそのような方を支えることのできる人を増やし、地域の子どもは地域で支えていくことのできる地域づくりをしていく。

(実施内容)

・相談対応：居場所あうら開所時や公式アカウントにて随時対応。
　心の相談員として学校とも連携
・居場所の開所 68回 のべ611名の参加
・地域探検隊 8回（9/28,10/11,11/9,11/22,12/31,1/3,1/18,2/1）のべ160名参加
・み～んなでおでかけ　2 回(1/5,2/23)　のべ24名
・あうらぱんとりー 12回
（9/3,9/12,9/17,10/1,10/10,10/22,10/24,10/31,11/14,12/16,1/16,2/3）のべ 145 名の参加
・フードパントリー 2回(11/30,2/14)のべ 50 名参加
・おせっかいおばちゃん増殖プロジェクト　グループライン登録者17名　団体2組
・自分の地域でも子ども食堂をやってみよう！
　地域の子どもたちを地域で支えよう大けやきプロジェクトの開催 3店舗準備中
・長期休暇中のお預かり居場所あうらinたんとくる 11回
（9/20,9/23,10/12,10/18,11/8,11/24,12/20,12/25,1/11,1/17,1/25）のべ190名参加



地域探検隊　クッキーつくり
地域のお菓子屋さんから習いました



あうらぱんとりー
ポポラ様からの野菜や果物

事業の成果	夏休み期間に遊び場のタントクルセンターで繋がった子どもたちは、家庭に問題のある子どもたちが多かった。親からでは繋がれなかったと感じた。みんなで話し合い、すぐに遊び場と連携し“居場所あうらたんとくる”として、居場所をタントクルセンターに移動しての活動を始めることができた。活動を続ける中で、子どもの父兄とも繋がり、相談対応や他機関との連携に繋ぐことができた。 また、複数の団体で、新しい関わりが出来るようになったり、関係性が深まった団体もある。ライオンズクラブ様とはフードドライブをしていただいたり、大きな行事を協働で企画運営することができた。課題も見つかったが、それも共有し、これからも共に活動協力をしていくことを確認できた。そのほかの団体とは、一度子ども食堂をやってみたいという団体も出てきており、次年度、試験的に子ども食堂あうらで活動を実施してみたいという団体も出てきている。参加者の中にも何かできることをしたいという方の、おせっかいおばちゃん登録者も出てきている。
今後の展望	第2回の採択になったことから、事業期間が短く、事業が詰まってしまい、ホームページ作成や大けやきプロジェクトなど、最後まで終わらない事業が出てしまった。早くから資金面の事も考えた運営をし、より子どもたちの育ちを考えた活動にしていきたい。 活動をしていく中で、団体でも個人でも、何か自分に出来ることはないかと言ってくださる方がとても多かった。その方たちの想いを形に出来るように、子ども食堂の調理をお願いしたり、活動に加わったりして頂く。 また、引きこもり気味の若者とかかわる機会が多くあり、 以前から考えていた、就労に繋がるまでのサポート事業ができないか考えている。目の前にいる困難を抱えた人や家庭のために、地域の人と一緒に出来ることを少しづつでもやっていきたい。今後も交流を深めながら、地域の人が地域の子どもたちのために、何かできるような仕組みづくりをしていきたい。



子ども食堂　お餅をたべよう！



中高生の日　タコパ～



地域探検隊　警察署の文化祭にて



み～んなでおでかけ
新幹線で新庄駅まで

<u>団体概要</u>
団体名　ままらんぼ母親クラブ
代表者　細谷由紀

令和７年度　やまがた社会貢献基金助成事業　活動報告書

団体名	特定非営利活動法人まちづくり山形		
事業名	中心市街地まちづくり計画に関するワークショップ開催と計画情報周知		
助成事業区分	協働助成事業（テーマ希望型[まちづくり]）		
団体の所在市町村	山形市	事業費	６０９，４２７円
		うち助成金額	５５０，０００円
事業実施期間	令和　７年　６月　１１日　から　令和　８年　２月　２８日		

事業目的・実施内容

（事業目的）

中心市街地では文翔館を中心に歴史文化ゾーンが広がり、その中で御殿堰、千歳館などの整備活用事業が進行中である。また市民会館、済生館、駅前など新規にプロジェクトが構想・計画中である。その他にも多くの構想とマンション建設などが見込まれている中心市街地について、将来の市街地づくりに向けて、情報収集とそれに基づくワークショップ（WS)を実施して、市街地の将来像や計画の方針ないしガイドプランなどを話し合って、できるだけ多くの市民にわかりやすく情報提示することを目的としている。

（実施内容）

中心市街地で進行中の事業、新規プロジェクト、構想などについて、わかりやすく客観的適切に資料化し、今後のまちづくりについて考えるためのプログラムをつくり、まちづくりWS参加者を募集して3回のWSを実施し、その結果をパンフレットなどにまとめ広く情報発信した。

① 第1回ワークショップ
実施日:10月27日　　参加者:15名
3名による話題提供後3つのグループで各テーマについて話し合い議事録を作成した。

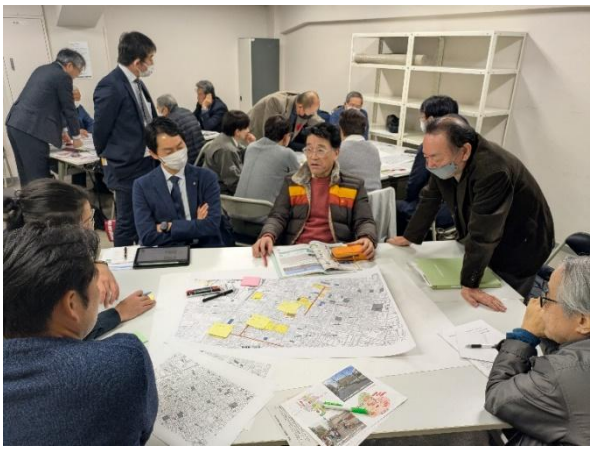
② 第2回ワークショップ
実施日:12月2日　　参加者:18名
ゲスト1名と2名の話題提供後3つのグループで話し合い議事録を作成した。

③ 第3回ワークショップ
実施日:1月14日　　参加者:24名
ゲスト1名と2名の話題提供後3つのグループで話し合い議事録を作成した。

④ ネットラジオなどによる配信
Shikisaiラジオに画像付きネットラジオ配信を委託し、12月4日に収録後、配信された。

⑤ ガイドライン作成とHP掲載および山形市関係課に提出
議事録を整理しガイドラインを作成し、NPOのホームページにその内容を掲示し、市関係課に提出した。関係課から、他の関係する課にも情報共有することを約束いただいた。





事業の成果	様々な主体によって計画されている中心市街地のプロジェクトは、それぞれ個別的にならざるを得ないけれども、個別バラバラのままでよいわけではない。沿道や地区がまとまりをもつように基本方針などを共有するために、当事者などに対して第3者からコメントや提言があることは有用であるし、情報を共有してオープンに話し合えることは、事前に事業を吟味する機会を提供して、計画案の修正や改善につなげる可能性を高める。今回情報共有WSをとりまとめガイドライン提案を広く発信するとともに、市へ直接提示できたことが成果の端緒といえる。市が計画内容の吟味や改善につなげるかは今後の市の事業を見守る他ない。したがって同様の作業を継続していくことの意義は大きい。今回の活動がそのような活動につながるように、NPOとして活動していきたい。
今後の展望	市内4学協（建築学会、建築士会、建築家協会、建築士事務所協会）およびまちづくりに関連する団体、市民に呼びかけて、集まったメンバーによって進化したガイドライン作りに取り組む体制をつくり、市内中心市街地の開発、まちづくりの情報収集を定期的に実施して、その情報開示とガイドの基本方向づくりを継続していく。

構




2025年（令和7年）12月10日（水曜日）　地域　山形　欄

中心市街地 将来像は

再開発進む山形

NPO法人まちづくり山形（相羽康郎代表）は、大規模な再開発計画が進む山形市中心市街地のまちづくりについて、市民が意見交換するワークショップを10月から市内で開いている。今月2日には2回目を開催し、歴史と学びを組み合わせて人を呼び込む仕掛けなど、参加者がまちの将来像を語り合った。

NPOがワークショップ　歴史、文化活用 市民がアイデア

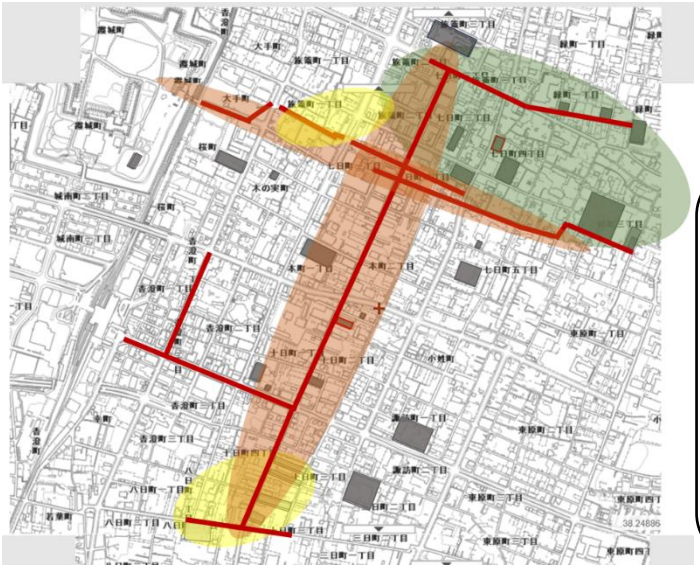
市内では、旧大沼山形本店を含むエリア再開発を巡る基本構想の策定、旧県民会館跡地での新市民会館建設など、大型プロジェクトが同時並行で進んでいる。ワークショップは、はっきりとした計画の全体像が見えていない状況を踏まえ、情報の共有と発信などを目的に、県社会貢献基金の助成事業として企画した。

2回目は、やまがたクリエイティブシティセンターQ1で、約20人が参加して開いた。相羽代表や東北芸術工科大の鍋野友哉非常勤講師らの話題提供を受け、参加者は3グループに分かれて七日町エリアや霞城公園、県民ふれあい広場などの回遊性を高めるためのアイデアを出し合った。

参加者からは、歴史や文化を生かす取り組みとして「点在する明治以降の建物をつなぐ道を提案し、歴史の記憶をとどめる仕掛けを考案してはどうか」といった意見が出された。御殿堰を含む周辺エリアの活用については「桜水空間として素晴らしい資源。文翔館につながる目抜き通りと組み合わせ、暮らしや学び、観光のシンボルになるのではないか」との声もあった。

来年1月中旬には最終回となる3回目を開く。まちづくり山形は、意見を集約して、年度内に市民有志の提案として市に提出する。（小林達也）

中心市街地のまちづくりについて市民が意見交換した第2回ワークショップ＝山形市・やまがたクリエイティブシティセンターQ1



団体概要

団体名　特定非営利活動法人まちづくり山形

代表者　相羽康郎

URL https://matidukuriyamagata.work/

令和７年度山形県ＮＰＯ活動促進補助事業

収支精算書

事業の名称	中心市街地まちづくり計画に関するワークショップ開催と計画情報周
団体名	特定非営利活動法人まちづくり山形

１　収入の部

（単位：円）

区分	精算額	内容
県補助金	550,000	令和７年度山形県NPO活動促進補助金
当該事業による収入		
その他収入		
自己資金	59,427	
合計	609,427	

２　支出の部

区分	精算額	
謝金	200,000	講師、アドバイザー謝金
旅費	37,000	講師交通費、宿泊費
印刷製本費	42,901	チラシおよびWS資料コピー
消耗品・材料購入費	1,026	WS用筆記用具、模造紙
通信運搬費		
保険料		
使用料		
人件費	218,500	議事録まとめ、WS資料、ガイドライン、HP作成
（委託費）	110,000	Shikisaiネットラジオ配信
（備品購入費）		
（修繕費）		
合計	609,427	